

オンリーワンを目指す 立命館のグローバル展開と大学改革

2018年5月13日(日)

学校法人立命館 理事長 森島朋三

学園の概要① 歴史

1869年 西園寺公望 私塾「立命館」を創始

1900年 中川小十郎「私立京都法政学校（現在の立命館大学）」を創立



学祖 西園寺公望



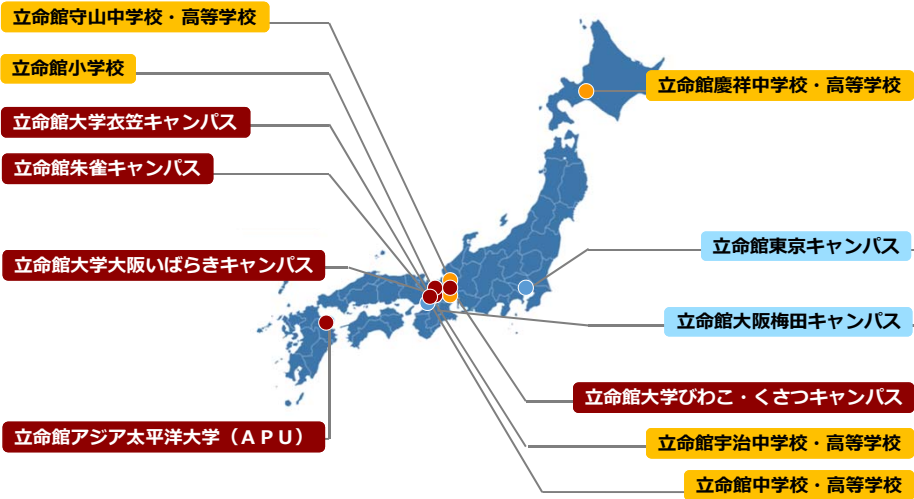
創立者 中川小十郎

建学の精神
Founding Ethos

自由と清新
Freedom and Innovation

- ・ 社会の要請に応え、**変革**し続ける学園
- ・ **多様性**を重視（全国型、留学生）
- ・ **アジア太平洋地域**から世界へ
- ・ 1869（明治2）年、創始の**伝統**

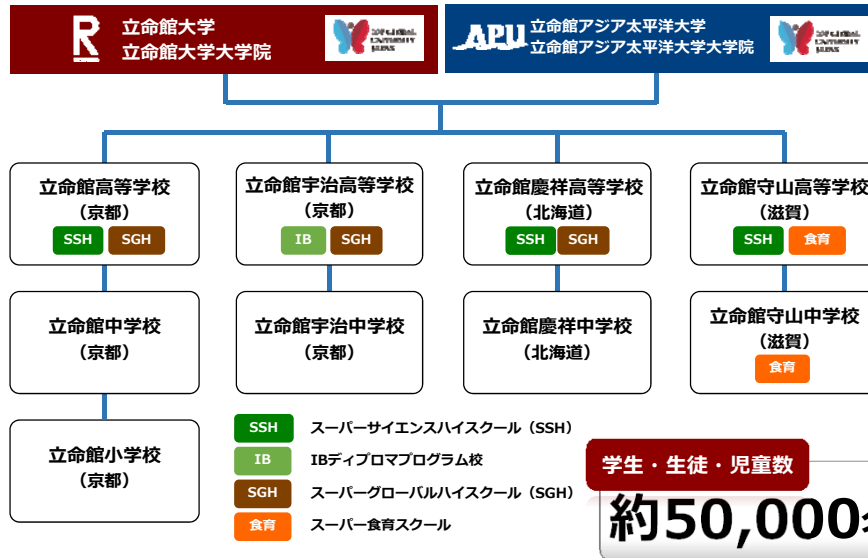
学園の概要② 日本国内の展開



学園の概要③ グローバル展開



学園の概要④ 学園構成



立命館の国際化の歩み

1985年	国際センターを開設	2011年	世界展開力強化事業（キャンパス・アジア）採択
1988年	西日本初の国際関係学部を創設	2011年	国際関係学部に英語による学位取得コース開設
1991年	立命館UBCジョイント・プログラム開始。毎年100名をUBCに長期派遣。UBC内に混住型教育寮建設	2012年	グローバル人材育成推進事業（GGJ）採択
1994年	アメリカン大学とのデュアル・ディグリー・プログラム開始	2013年	政策科学部に英語による学位取得コース開設
2000年	立命館アジア太平洋大学を創設（大分県別府市）	2013年	世界展開力強化事業（AIMS）採択
2001年	理工学研究科に、日本の私学で初めてとなる英語による修士課程（国際産業工学特別コース）を開設	2013年	大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア共同運営学部設置（中国政府の認可）。平成26年秋よりパイロット・プログラム生の3年次編入15名受入。同時に中国側で正規生100名入学
2002年	経済学研究科、国際関係研究科、政策科学研究科に英語による修士課程のコースを開設	2014年	スーパーグローバル大学（SGU）採択 世界展開力強化事業（インド／理工系）採択 グローバル・アントレプレナーシップ推進事業採択
2007年	大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30）採択	2018年	国際関係学部にアメリカン大学・立命館大学国際連携学科開設
		2019年	オーストラリア国立大学との共同学士課程グローバル教養学部を開設予定

立命館は、アジア、そして世界の未来のために何ができるか？

文部科学省がグローバル化を重点化する37大学を選出



立命館大学・立命館アジア太平洋大学の両大学が採択



立命館大学
立命館大学大学院



グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成



立命館アジア太平洋大学
立命館アジア太平洋大学大学院

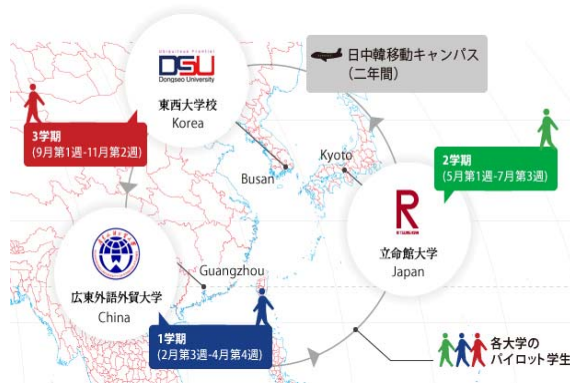


Global Learning : 大学教育の新しい地平を目指す

立命館は、アジア、そして世界の未来のために何ができるか？

CAMPUS ASIA program

立命館大学、東西大学（韓国）、広東外語外貿大学（中国）の三大学が共同運営するプログラム。東アジア多国間における高等教育連携のモデルを常設化



三大学から選抜された学生が、「移動キャンパス」という仕組みによってプログラム化された共同授業を履修

各国で身につけた中国語・朝鮮語能力や専門知識、コミュニケーション能力を生かし、**中国、韓国でインターンシップを実施**

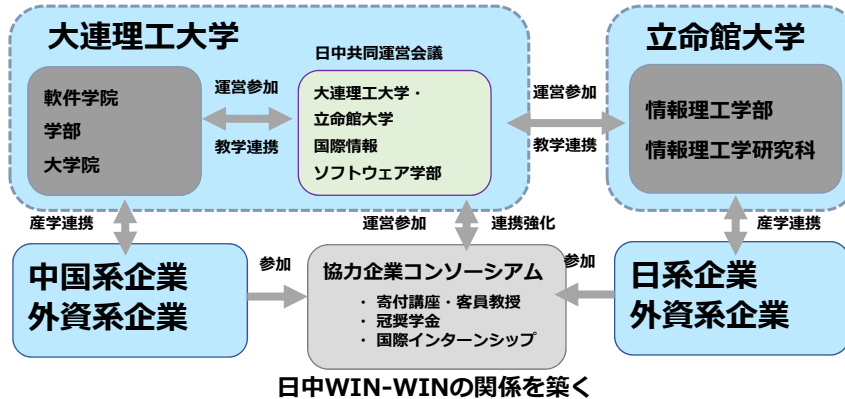
立命館は、アジア、そして世界の未来のために 何が出来るか？

大連理工大学大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部

- 高度IT人材育成を目的とし、同大学内に日中の大学で初の共同学部を設置。カリキュラムを共同開発・運営。



国際産学連携による運営スキーム



立命館は、アジア、そして世界の未来のために 何が出来るか？

「オーストラリア国立大学 (ANU)」との共同学士課程開設 (2019年4月設置予定)



川口前学長(写真左)とIan Youngオーストラリア国立大学副学長(写真右)

■ 協定締結

- ・安倍首相立ち会いのもと協定締結 (2014年7月8日キャンベラ)
- ・日豪の共同声明に両校の協力進展を歓迎する旨明記

■ 共同学士課程の目標

世界最高水準の教育

・新しい教育モデルの創造

学部の全学生が2つの学位取得を目指すデュアル・ディグリーの学びは、日本初の試み

毎年100人の学生を受け入れ。立命館大学の学生は3年次にANUで学び、ANUの学生は2・3年次に立命館大学で学ぶ

従来のリベラルアーツの枠を越え、異なる文化や社会背景を理解し、物事を多角的に捉える力を育成

・クロス・ディシプリナリーな教育研究

グローバル教養と多文化協働力を形成
新しい視点でのアジア・日本研究を展開

立命館は、アジア、そして世界の未来のために 何ができるか？

世界的研究の展開～古気候学研究センター

過去に起きた気候変動を解明し、未来の気候変動を予測

湖底などの堆積物によってできた縞模様「年縞」を「ものさし」として、過去5万年の時を測る「標準時計」が世界に認められる

過去の気候変動や火山噴火、洪水などの天変地異を予測する研究を推進



アジア・日本研究の拠点～アジア・日本研究所

ミッションは、「アジア・日本研究」をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成

「アジアのゲートウェイ」をキャンパスコンセプトとする大阪いばらきキャンパスに設置

全学横断的なアジア・日本研究者の所属組織、世界各地から研究者が集うアジア研究のプラットフォームとなることを目指す

立命館は、アジア、そして世界の未来のために 何ができるか？

立命館アジア太平洋大学（2000年開設）



- 86カ国・地域から2,947名の国際学生（2017年5月）
国内学生は2,940名（国際学生比率50.1%）
- 日英二言語による教育
- 国際学生の半分は卒業後帰国
- 世界的に有名な「国際認証AACSB」の認証を獲得



開学時の目標：3つの「50」

- ① 国際学生（留学生）が50%
- ② 外国籍教員が50%
- ③ 50カ国・地域の学生の受け入れ

全て達成

新指標：4つの「100」

初年次教育寮	100%
多文化協働学習授業実施率	100%
在学中海外経験（日本人）	100%
留学生出身国・地域（毎年）	100カ国

立命館は、アジア、そして世界の未来のために何ができるか？

立命館アジア太平洋大学（2000年開設）

APUの真価 = 世界中の卒業生の活躍

2017年度	2024年度
受け入れ学生の出身 144ヶ国・地域	受け入れ学生の出身 150ヶ国・地域
学位授与累計数 15,096名 世界23拠点 の卒業生組織	世界30拠点 の卒業生組織 全世界を包むGlobal Alumni Network
母国以外での就業等 (1期生（2000年入学）の今・・・) 国内学生の16% 国際学生の28%	母国以外での就業等 国内学生の30% 国際学生の40% へ

世界一の多文化環境を構築
➡ 次は「教育」で世界の評価を目指す

立命館は、アジア、そして世界の未来のために何ができるか？

立命館アジア太平洋大学（2000年開設）

Global LearningによるAPUの次の到達点

- ① 「Global Learning」で、世界の大学でも突出した評価を獲得する
- ② 「Global Learning」を、未来の大学のひとつのモデルとして日本・世界に提起する

Global Learning実現のために～単なる「異文化交流をこえた教育の質向上～

- ① 圧倒的な多国籍・多文化環境の構築
- ② 学生生活のプロセスに無数の成長の機会を用意
- ③ 「学生の学び合い」と「学習の動機付け」を重視した教育の展開
- ④ 世界の多様なステークホルダーの教育や大学運営への参画
- ⑤ 大学ガバナンス改革
Governing Advisory Board の設置
大学執行部の国際流動性向上（学長の国際公募）
職員の国際通用性向上

立命館は、アジア、そして世界の未来のために何ができるか？

立命館アジア太平洋大学（2000年開設）

国際的な教育研究、大学運営の質保証・向上

- ① 国際標準のVALUE Rubrics 等の導入
- ② 国際認証の取得（AACSB、EQUISなど）
- ③ 多文化FD/SDセンターの設置

Global Learningを支える多様な連携

- ① JD等の教育研究連携（海外重点校政策）
- ② 国際的ビジネス・スクール・アライアンス
- ③ 国際アドミッション連携（100カ国、地域連携）
- ④ 企業連携（グローバル人材育成研修）
- ⑤ 地域連携（国際化推進貢献）
- ⑥ 卒業生連携（150カ国・地域、世界30拠点）

グローバル化を基軸とした大学改革の方向性



立命館大学
立命館大学大学院



多文化協働人材の育成



立命館アジア太平洋大学
立命館アジア太平洋大学大学院



Global Learningの実現

研究の高度化および大学院の質的向上

社会要請に応じた教育研究組織の再構築

企業や社会人のニーズを受け止めた
グローバル人材養成の推進

世界を視野に入れたブランド戦略の展開

突き抜けた
グローバル化を
なしえる
世界標準の教育
研究展開実現